

テーマ：子供も教師も開放される授業づくり ー「家庭科を行う」ってどういうこと？ー

目的： 今後の家庭科教育に向けて、これまでの知見を踏まえ、現場でどのように形にしていくか検討する。

「家庭科で行う」から「家庭科を行う」への転換

現状の家庭科は、少子化・高齢化・デジタル化などの社会課題を分野別構造（家族・衣食住・消費・環境）の中に次々と入れ込む傾向があり、内容が百科事典状態になっていると指摘されることがあります。

第4回の講演で、工藤先生は、「家庭科で社会課題を扱う」のではなく、「家庭科の枠組み・方法論・内容論をもって社会課題に向き合う」という発想の転換を提唱してくださいました。時間数不足・教員配置など制度的なものもありますが、家庭科の視点でしか見ることのできない課題を子どもたちと考えることが重要であるというご意見をいただきました。「家庭科を行う」ために、改めて、家庭科独自の枠組み・方法論・内容論を考えてみませんか？

1. アンケート結果の総括

今回のカタリバでは、工藤先生の講義を通じて

○「本質的な問い」

○「生涯発達」

○「生活と人生の往還」

という重要なキーワードが提示され、

多くの参加者が自身の授業や研究、実践を

深く振り返る機会となりました。

学校種別の内訳

7 名 (63.6%)

大学（教員養成・研究機関）

4 名 (36.4%)

初等・中等教育（中学校 2名 / 高等学校 2名）

大学の教員養成に携わる研究者と、中高の現場で日々授業と向き合う実践者が一堂に会し、多様な視点から深い議論が交わされました。

➡ 次回のカタリバでは、これらの学びを現場でどのように形にしていくか、より具体的で対話的な意見交換を行っていきたいと思います。

2 アンケート抜粋：学びと気付き

①：「問い」と「生涯発達」の捉え直し

「もっともらしい答え」からの脱却

高校教員

・授業で工夫をして問うていたつもりだったが、生徒に「もっともらしい答え」を言わせようとしていたことに気付かされた。問いのもち方自体を見直したい。

教員養成・大学授業への還元

大学教員

・学生（未来の教員）自身が自分の生き方や学びを問い直せるような授業設計が必要だと感じた。
工藤先生の示された理念を養成の現場でも伝えたい。

生涯発達という概念への共感

中学教員

生徒だけでなく、自分も周りも「生涯発達し続ける存在」であるという言葉にハッとした。固定観念に囚われず、関わり続ける姿勢を大事にしたい。

「本質的な問い」を投げかける覚悟

研究者

単なる知識伝達ではなく「より良い生活・人生とは何か」という本質的な問いを立てることが、学習者の思考を本当の意味で開く鍵になると再確認した。

②: 家庭科の本質と「生活と人間の往還」

生活の方法と人生の方法の往還

中学教員

日頃から感じていたモヤモヤが「生活の方法と人生の方法の往還」という言葉で見事に言語化された。家庭科はどんな課題にも希望を見出せる教科だと誇りを持てた。

「環境は変えられる」というメッセージ

高校教員

与えられた環境に従うだけでなく「自分の力や協働によって環境は変えられる」と生徒に実感させることが、これからの時代に必要な主体性を育む。

「人生科」としての家庭科の可能性

大学教員

家庭科が単なるスキルの習得にとどまらず、「自分の生き方を考える教科（人生科）」であるという講義内容に強く共感し、深く感動した。

学習者の「選択と意思決定」を支える

大学教員

「正しい選択」を一つに絞らせるのではなく、多様な価値観の中で自ら考え決定する経験を、授業の中でいかに保障するかが重要だと強く感じた。

※ 現場での葛藤と実践に向けた声

時間的制約と問いの深さのバランス

高校教員

コマ数が限られる中、本質的な問いを深める時間と基礎的知識・技術の定着をどう両立させるか。具体的な題材展開の工夫をもっと学びたい。

評価方法への不安と模索

中学教員

「自由な思考」や「人生への往還」を目指すとき、従来の観点別評価でどのように見取ればよいのか。実践者の評価事例を知りたい。

地域や他教科との連携の可能性

大学教員

家庭科の中だけでなく閉じず、総合的な探究の時間や他教科、地域社会とつながることで、学びが実社会へ波及する手ごたえをつくりたい。

3. 次回カタリバ(8/22)に向けた協議テーマ

① 本質的な「問い」の具体例

単元や題材を貫く「本質的な問い」をどのように設計しているか、持ち寄って共有したい。

具体的な指導案や問いのフレーズを議論したい。

② 生徒を自由にする指導

型にはめず、生徒の思考や生き方を解き放つための具体的なアプローチや教師の立ち位置。

失敗を恐れない雰囲気づくりの工夫を聞きたい。

③ 日常生活への還元と評価

学校での学びを家庭や地域でどう生かすか、その変容をどう評価・見届けるか。

学びが家庭に届くような仕掛けの事例を共有したい。